

2018年度 国際教育センター主催 公開講演会

# 第二言語習得における 語彙システムの構築過程と 外国語学習への示唆

日時

2019年1月15日(火)  
16:40～17:40 \* 入場無料

場所

人間文化創成科学研究科・  
全学共用研究棟604会議室

講演要旨

言語を習得し、その言語でコミュニケーションを行い、思考することができるようになるためには膨大なサイズの語彙をもたなければならない。語彙において単語は単独に存在するのではなく、クモの巣のような緊密で複雑なネットワークの中で他の単語と関係づけられており、単語の意味は他の単語との関係で決まるのである。子どもは単語の意味を少数の事例から帰納的に推論しなければならない。そのときに、他の関連する単語との関連も考える必要がある。語彙サイズが小さい子どもが、どのようにして新しい単語の意味を推論し、語彙のシステムの位置づけ、やがて大人のもつ巨大な語彙を構築することができるのかという問題は言語習得の問題のみならず、知識の学習、構築の問題にとっても重要な問題である。本講演では「持つ・運ぶ」動作の意味領域を20以上の動詞で複雑に言い分ける中国語を題材にし、中国語を母語とする子どもが「持つ・運ぶ」という意味領域に属する多くの動詞を獲得していく際の意味の再編成の過程をcross-sectionalな実験により、定量的に明らかにする。また、同様の実験によって、中国語をL2とする外国語学習者がどのようにこれらの互いに類似した語を学習しているのかについても定量的に示す。これらの実験結果を踏まえ、L1, L2における語意・語彙学習のプロセスに相違点について議論するとともに、語彙という巨大な記号のネットワークシステムをどのように学習者が構築していくのかという問題を考え、さらに外国語語彙学習への示唆を議論する。

講師



今井むつみ

慶應義塾大学  
環境情報学部 教授

1994年ノースウェスタン大学心理学部Ph.D.取得。専門は認知心理学、発達心理学、言語心理学。幼児の言語や概念の発達、認知科学の立場から学びの仕組みを明らかにする研究を行っている。数多くの学術論文をハイインパクトの国際誌に発表し、アジア初のCognitive Science Society（国際認知科学会）のFellow, Governing Board Memberに選出されている。著書には『ことばの学習のパラドックス』『レキシコンの構築』『言語と身体性（岩波講座 コミュニケーションの認知科学）』などがある。著書には『ことばの学習のパラドックス』『レキシコンの構築』『言語と身体性（岩波講座 コミュニケーションの認知科学）』などがある。

申込

本学関係者は不要。  
学外からお越しの場合は、  
下記までお申し込み下さい。

申込・問合せ

お茶の水女子大学  
国際教育センター

Email: global-  
kyoumu@cc.ocha.ac.jp